



中逸町政「第2章」、始動

再選―。

任期満了に伴う長洲町長選挙は4月16日告示され、現職の中逸博光氏以外の立候補の届け出がなく、中逸氏の無投票での再選が決まった。

「住みたい 住んでよかったと思える長洲町」をスローガンに、5月9日から中逸町政の「第2章」が幕を開ける。

果たしてその展望とは―。中逸博光町長に2期目に向けて、決意と抱負を聞く。



Profile

中逸博光 町長

なかみつ ひろみつ

1954年8月1日生まれ。明治大学商学部卒業後、78年熊本市役所入庁。99年市民税課長、04年花園市民センター所長、06年男女共生推進課長を経て、09年長洲町長に就任。妻裕子さんと二人暮らし。出町区在住、58歳

―2期目の再選を受けて今の心境は？

1期目と変わらず長洲町のかじ取りをできることを大変うれしく思っています。これまでの町政は公共下水道特別会計の赤字解消、国の経済対策や県の補助金を活用したまちづくりなどに対し、住民の皆さんの理解と協力をいただき進めることができた4年間だったと感じています。

今回の再選は、これまでの町政に対して住民の皆さんから一定の成果を認めていただいたものであると感じるとともに、今後も、もっと町を発展させてほしいという意思表示であると受け止めています。

―町の課題と、その発展のために取り組まなければならない重要施策とは何か？

町の人口は現在約1万6000人ほどですが、人口は毎年減少しており、あと10年後には1万5000人ほどになると推測されています。この減少をどうにかして食い止めなければなりません。定住化をいかに進めていくか、いかに政策に反映させていくのか、それが2期目の大きな課題であると考えています。

住民一人一人が幸せを感じるまちづくりに命をかけて取り組みたい

その中で進めていかななくてはならないことの1つが宅地整備です。「長洲町には宅地がない」と言われることがあります。その問題を解消していくために、駅南側をはじめとした一帯の区画整理を行い、その中に商業施設などを兼ね揃えた「ニュータウン」づくりを進めていきたいと考えています。

少子化に対する課題に対しては、少子化に歯止めをかけるためには、子育て支援と教育の充実はこれまで以上に進めていかななくてはなりません。これまで小学校6年生まで無料となった医療費を、下水道の赤字解消後には中学3年生まで拡大し、安心して産み育てられるまちづくりを進めていきます。高齢者がこれからも元気で住み続けられるまちづくりとして、現在22カ所で整備されている介護予防拠点を活用し、そこに集まる高齢者の人たちが、元気にいきいきと過ごせるよう、健康体操や健康教室を充実させ、地域から元気になるコミュニティ形成を目指します。

2月25日に要望の高かった光ファイバーが整備されました。また、ケーブルテレビを六栄地区の一

部に敷設することができました。情報通信網の整備によって、あらゆる情報を瞬時に手に入れることができるようになった一方、それ以上に情報化の推進は産業振興や地域活性化につながると考えています。今後は地域の中で活用できる情報化を推し進め、福祉や教育の分野などに活用していきます。

本年度より町内22カ所で防災行政無線が整備されました。災害が発生したとき、いち早く住民の皆さんに避難や危険を呼びかけるなど、行政が地域を支える体制を今後も築いていくとともに、災害に強いまちづくりを進めていきます。また、町には多くの空き家や廃屋があります。町としてのよい対応をするべきなのか、空き家や廃屋に関する制度を確立し、安心安全なまちづくりを推進します。

―町の発展のために継続して取り組むべきことは？

有明沿岸道路の三池港から長洲港までの道路建設は、必ず実現したいと考えています。これが長洲町のことからの発展に大きな役割をもたらすものと認識しています。道がつながることによって「人」、

「」が流れ、そこに経済流通の新たな流れが生まれます。沿岸道路を通じて地域交流がより活発となり、これまでにない新たなまちづくりが可能になると考えています。

―新たなまちづくりへの抱負は？

減ったとはいえ、まだまだ町には4億近い下水道の赤字があります。財政再建を行いながら、いかに活力あるまちづくりを行っていくか、気を引き締めていきながら「住みたい 住んでよかった」と思えるまちづくりに向けて進めていかなくてはなりません。その実現のために、住民の皆さんと共に歩んでいきたいと考えています。町がこれから何をしようとしているのか、積極的な情報公開をすすめ、「開かれた行政」に努めます。また、地域にもこれまで以上に積極的に外向き、座談会などを通じて広く住民の皆さんの声を聞きながら施策に反映していきたいと考えています。

すべては住民の幸せのために―町民の皆さんが幸せを実感することができるよう、今後も町の発展に命をかけて取り組みます。活力ある長洲町に向けて、皆さんと共に歩んでいきます。